



Biz Com

ビズコム Vol.48

<http://www.rikkyo.ac.jp/sindaigakuin/bizsite/graduate/bizcom.html>


Contents

14期生歓迎号

BizCom Interview	山中伸彦准教授	1
	栢谷義雄先生 & 北見幸一先生	2-3
院生生活相談会		4-5
院生活躍中! RBS NEWS&TOPICS		6
知的好奇心を高める! 研究科紹介		7
修了生インタビュー Find Sitter代表 羽根田里志氏		8

「好奇心を羽ばたかせ学ぶ楽しさを知って欲しい」

14期生のみなさん、ビジネスデザイン研究科へようこそ!「過去と、現在と、未来をつなぐコミュニケーションツール」をモットーとした本紙では、みなさんの院生生活に役立つ様々な情報をお伝えしています。今回は「14期生歓迎号」と題して同研究科前期課程主任の山中准教授にインタビュー。これからの2年間を過ごすにあたり、どのような心構えが必要なのか改めてお話をうかがいました。



立教大学大学院ビジネスデザイン研究科
博士課程前期課程主任

山中伸彦 准教授

—改めて、先生の口からビジネスデザイン研究科についてお聞かせください

ビジネスデザイン研究科(以下RBS)では、2002年の創設当時から「ゼネラリスト人材の育成」を目標に掲げています。特定の分野だけではなく、事業全般を見渡して勘所をとらえる。そういった経営センスを持つ人こそが、新たな事業構想を担う人材だと考えているからです。

ですから自分の専門領域に没入するのではなく、苦手分野を克服する勉強法をおすすめします。たとえば営業職の人が財務を勉強することによって、新しい企画を提案する際に数字的な裏付けができるようになりますよね。自分が持つ専門知識に隣接した領域を学ぶことで、今までとは異なった物の見方が可能になると思います。

—ご自身では、社会人が学ぶ意義をどのように考えていますか

最近「地方創生」というキーワードをよく耳にしますが、地方産業の掘り起しには、やはり地元企業の人たちに向けた人材教育が必要ですね。それはもちろん大企業にも言えることだと思います。少子高齢化という状況の中、一人ひとりが要

求される知識やスキル水準は高まりつつある。社会人が学ぶことは企業・従業員、さらに社会から強く求められていると思います。

日本では、アメリカのコミュニティカレッジのような場所がまだ足りないかもしれません。大人が学び直す場として、社会人大学院のような学びのコミュニティはこれからもっと活用されて欲しいと思います。勉強したからといってすぐに職場の最前線で活躍できる訳ではないですが、いつか役に立つ日は来ますので。

経験により、フレームワークも生きてくる

—学生時代の勉強と異なる点がありますか

大人になってからの勉強は本当に楽しいですよ。やっぱり世の中の色々なことがわかっているからですかね。学生の時は漠然としていた概念やフレームワークも、社会に出てからもう一度触れると「ああ、こういうことだったんだ」というような感じで、経験と理論とが自分の中で繋がるはずですよ。実践で得た知識をすぐに検証できる、同時に既存のフレームワークでは説明できないところが見えてくる。経験と照らし合わせて学べることは、社会人の強みだと思います。

—経験と理論、双方の均衡を保つことが重要なのですか

はい、経験に頼り過ぎても自分の考えを相対化できません。上手くバランスを取るためには、やはり異なるバックグラウンドを持った人たちとの会話を楽しんだ方がいいですね。RBSを、日常の人間関係から少し離れた第3の場として利用してください。イノベーションや新しい発想は、日々の利害関係に縛られては生まれませんので。

—これからRBSで学ぶ14期生にメッセージをお願いします

色々な人との交流を楽しみ、できるだけ素直になって、知らないことを恥だと思わず学ぶ楽しさを知ってください。不安や気負いもあるかもしれませんが、楽しんで勉強した方が結果として良いものが得られるはずですよ。知りたい、面白いという気持ちを大切に、大学院生活を満喫してください。